



飛騨っ子

令和2年11月26日発行 NO10
 飛騨県事務所 振興防災課 振興防災係
 家庭教育推進専門職：水口 悟
 TEL: 0577-33-1111 (内線 235)
 E-mail: mizuguchi-satoru@pref.gifu.lg.jp



‘わが子育てに向き合う時間’の大切さ

1 白川村教育委員会の実践(在宅取組型 「家族の大切さ」)

白川村教育委員会では、家庭の教育力アップをめざし、社会教育委員皆様のご意見をいただきながら独自の“家庭教育ノート”を作成し、夏休みに保護者を対象に在宅取組型の家庭教育学級に取り組みました。

<「家庭教育ノート」を活用した 在宅取組の流れ>

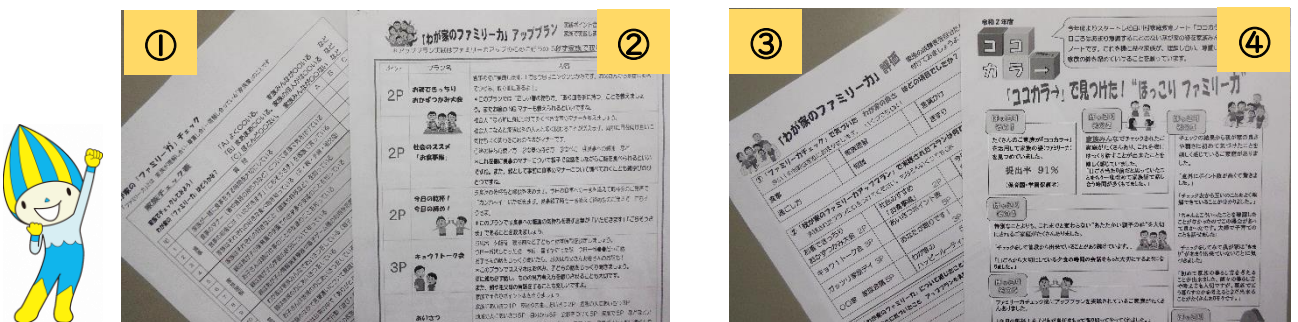
- ① 教育委員会より、“家庭教育ノート”を園児と児童生徒を持つ保護者へ配布
- ② 6つの視点25項目(食事・家族理解・言葉かけ・過ごし方・相談・きまり)から、わが家の姿をチェック(①)
- ③ チェック表の結果をもとに、アッププランへの取組(②)
- ④ わが家の姿のチェックやアッププランの取組を通して感じたことなどのまとめ(③)
- ⑤ 教育委員会が取りまとめた後、メッセージを添え各家庭へ返却
- ⑥ 教育委員会によるまとめと啓発(④)



<取組後の感想>

親さん:子どもと話し合っ、まずすぐにできる「ご飯のときは、しっかりと‘いただきます’‘ごちそうさまでした’」を言おうと決めました。食べるものがあることや作ってくれた人に感謝をするために、自然に準備や後片付けまで手伝ってくれることが多くなりました。普段から、挨拶や親子でじっくり会話すること、子どもががんばった日は、ポイントカードにIPシールが貼れる(50P貯まるとご褒美がもらえる)というのを実践しています。今は、1日の終わり(寝る前)にハイタッチをするのが日課となっています。心も身体も満たされる日が多くなったなと感じました。これからも続けようと思います。

お子さん:みんなでできたことをまいにちできました。かぞくのみんながだいすきです。



何てあたたかな感想・・・家庭の教育力アップは、家族相互の理解(気づき・共感)がとても大切です。家族のために日々懸命に働いているのも親の姿です。独自の家庭教育ノートを作成し、親さんがわが子育てに向き合う時間をつくられたことは、大変値打ちがあります。白川郷の結の精神が、村全体の家庭教育を育てています。

2 高山市立栃尾小学校 家庭教育学級(学校行事参加型 「自立心」)



○日 時:令和2年10月30日 就学時検診

○テーマ:成長の節目を家族みんなで大切に! 「自立心」

紅葉最盛期の平湯峠は、すばらしい景観でした。保護者の皆さんが、‘わが子育て’について前向きに見つめている姿が印象的でした。感想には、‘自己肯定感を育むこと’の大切さについて書かれた内容がたくさんありました。卒園～入学という成長の節目を大切に

し、今回気づかれたことを少しずつ活かしながら、‘わが子の自立心’を家族みんなで育ててほしいと思います。

<参加者の感想>

- ・上にお姉ちゃんがいるので、本人は毎日その姿を見て「小学校ってこんなんだな」と心構えのようなものがあるのかなと思っていますが、今日のお話を聞き「親として子どもの心の準備をしてあげる気持ちが足りなかったな」と気づきました。自己肯定感・自己有用感は、大人でもなかなか持つことが難しいと感じているので、意識して声をかけてあげたいと思います。山の中の少人数のクラスとなりますが、そのよさがあることを親としても自信を持っていきたいと思っています。
- ・仕事から帰ってきてバタバタと上の子の宿題を見ていると午後8時になり、下の子のひらがなやカタカナの宿題が進まず…。一緒に遊んであげることができなかったのが焦っていましたが、あと5か月をスタートと思って時間を作り、ゆとりを持って過ごそうと思いました。子どもと一緒に何かをすることを大事にしようと思います。親子登山もしたいと思いました。

3 高山市立国府小学校の実践 (11/13) (在宅取組型 「自立心」)



「チャレンジ 家の仕事!」～やってみよう! やらせてみよう!
家の仕事～ は、3年目を迎えた母親委員会主体の取組です。初年度‘家のお手伝い’としてスタートした取組を、‘家のお仕事’と改められたのは、母親委員会皆さんの小学校段階から「家族(社会)の一員としての自覚・貢献感」を育むことへの強い願いがあったからだとお聞きしました。

取組期間を毎年10月中旬からの2週間と位置付けてあることが、計画する側も取り組む側も大変分かりやすい実践となっています。母親委員会のメンバー9名が、約全校400名の「チャレンジ 家の仕事!」カードを手分けして見届けます。親子の感想にメッセージとシールを添えて各家庭へ返すことは、なかなかできることはありません。一手間かけた取組は、保護者皆さんの家庭教育を支えています。

母親委員長さんと担当の先生との交流に教頭先生が加わり、挑戦する内容が毎年レベルアップしていること、3年間お風呂掃除を継続していること、簡単な内容から少しずつ難しい仕事に取り組んでいること、わが子を褒められる取組となっていることなどなど、一枚一枚のカードを手にとりながら話が盛り上がります。「チャレンジ 家の仕事!」の取組は、国府小学校児童の自立心を育む活動として位置づいています。

